



# ペンタゴ

2017年9月1日発行  
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113  
鹿児島市東谷山2-33-13  
TEL 099-268-2084  
FAX 099-284-5738

E-Mail: [taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp](mailto:taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp) URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~tycc/>

発行人: 頭島 光 神父 編集委員: 太田勇二郎 Sr.下川千穂子 岸誠之助

## 「被造物を大切に…」

◆9月最初の日曜日は「被造物を大切に作る世界祈願日」と定められ祝うよう勧められています。創世記の初めに書いてある通り、神様は、実際、お造りになられたすべてのものを私たち人類に託し、その「すばらしい作品の管理」を任せられました。しかし、今、私たちはこれまでに世界に対して正しくその責任をとってこられなかった事実を認め、悔い改めたくて神様に心からのゆるしを乞い求めるときが来ています。このことを教会が真摯に反省するのは、ただ宗教的な視点からではなく、自然の大切さをあらゆる宗教者とともに一致協力して、その信仰の違いを乗り越え、人類全体が住むこの世界を「共に暮らす家」として大切に守っていく必要性を訴えているのです。

### ◆「野のユリ、空の鳥」

現代、地球環境は著しく、その生態系を狂わせ、まさに大きな悲鳴をあげています。私たちはその嘆きの声をしっかり受け止め、できうる限りの処置を講じるべきです。既に、彼らの叫びは私たちの耳に届いていて、ある人々は自然保護のために働いています。私たちの無責任な行動や自分本位の考えによって破壊され、略奪され、絶滅の危機に瀕している自然を、大切に守り抜くことはもはや至上の課題なのです。そもそも、人間はすべての被造物と創造の初めから固く結ばれて生きてきたのです。だから、被造物は大切にされるべきであり、もしそうしないなら、それは自らの首を自らの手で苦しめるのと同じです。イエス様は「野のユリ、空の鳥を見よ」(マタ 6:26 以下)と言って、明日は炉に投げ込まれる野の草にでさえ、命があることを教えたのです。



### ◆「心からの回心」

この地球上で、今まさに現実に引き起されている悲劇を見つめましょう。そして私たちがまず率先して自然に対し「心からの回心」に努めましょう。ここで言う回心とは、エコロジカルな回心というものです。つまり「熱心でよく祈ってはいても、現実主義や実用主義にかこつけて・・・自分の習慣を変えようとしないう」(LS217 参照)ことから離れることです。かつて、アシジのフランシスコは、被造物との新しい関り、交わりを自らの回心の中で体験し、それを証した聖人です。空を飛ぶ鳥と語り、こよなく自然を愛し抜いた聖人と言え、この人の他にはいないでしょう。彼の回心こそ、まさに「心の変革」だったので

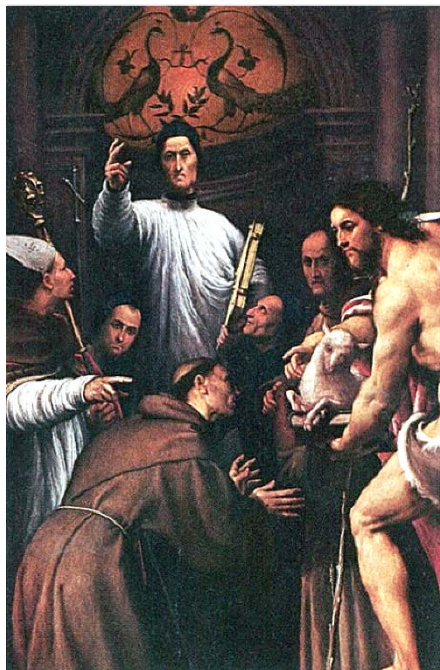
### ◆「惜しみない気遣い」

心から実践したい愛溢れる行動というものがあるとするれば、それは「惜しみなく、与えつくす気遣い」と言えます。この愛は被造物に対する感謝する心と見返りを求めない精神から生まれます。世界は神からの贈り物であることを知っている者は自らを犠牲にしても、これらの世界のために我が身を投じることができます。イエス様は、こう言われました。「右の手のすることを左の手に知らせてならない。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる」(マタ 6:3-4 参照)と。この言葉通り、他者への燃えるような惜しみない心をもって、神様がお造りになったものへの感謝と共に、見返りを求めない自然への気遣いこそ、御父が見ていて下さるゆえの、愛の証しなのです

主任司祭 頭島 光 神父

# 今月の聖人の中から 聖ラウレンチオ・ユスチニアノ司教

9月5日



ラウレンチオ・ユスチニアノは1381年、イタリアのヴェネツィアで生まれ、未亡人の母の手で育てられた。伯父のマリノは、アルガ島の聖ジョルジョ修道院参事会の司祭であった。

彼は19歳の時、伯父の修道院に入って祈りと苦行の生活をしながら勉学を続け、数年後に司祭に任命されたが、その時清貧を愛した彼は司祭館の金銀の皿を全部陶器のものに取り換えた。

ユスチニアノは教会や修道院を建て、生活費を切り詰めては貧者に施しを続けた。自分の貧しさを恥じる人々を秘かに探し出しては、教区から助けが出来るようにした。1451年ヴェネツィアの総大司教に任命され、1455年帰天するまでこの地位にとどまった。

「キリストが堅い木の十字架で死なれたのだから・・・」と言って、堅いベッドの上で息を引き取ったという。

Taniyama CC  
**NEWS**

7月30日(日)  
18:00~

今年の長い酷暑を思わせる7月末の一夜、大勢集まって、各班ご自慢の手作り料理を頂きながら、おしゃべりをして過ごしました。

準備がたいへんだっただしょう。また後片付けも本当にご苦労様でした。一生懸命演技をして下さった方々にも敬意を表します。







## ムイベルガ神父のアンテナ

# ルーテルとヴァチカン (3)

4月のペンテコステに、マルチン・ルーテルがヴァチカンに対してとても厳しい要求を出したことを書きました。もちろん、ヴァチカンはこの根底からの改変の言葉を聴き入れることは出来ませんでした。そして、1520年の6月に、“Exurge Domine”（主よ、立ち上がって下さい）という大勅書（荘厳な書式の教皇の書簡）をもってルーテルを攻めました。その中にルターの誤謬として、例えば、「死に直面した者の不完全な愛は、必然的に大きい恐れを伴う。この恐れは、自分ひとりで煉獄の罰を償うために十分であり、天国に入ることを妨げるものである」「告解には痛悔と告白と償いの三つの部分があるというのは、聖書にもキリスト教の昔の博士たちの教えにも基づいていない」…と書きました。これに対して、ルーテルも激しく反応しました。教授や学生たちに囲まれた彼は、大勅書を燃やし、ローマ法王を破門しました。ルーテルの考えでは、教皇レオ



Um 1518, als Raffael ihn porträtiert, tut Papst Leo X. die Thesen Luthers noch geringschätzig als »Mönchsgezänk« ab

十世が反キリスト(Anti Christ)の正体を現したという理由付けです。

そういうわけで、ルーテルは破門をローマカトリック教会全体に広げました。このやり方によって残念なことです。教会の一致は最終的に壊されてしまいました。そして、この分裂は現代まで続いているのです。

『父である神よ、あなたの御独り子イエズス・キリストの教会を顧みて下さい。この教会は全世界に散らばっています。信者たちがキリストと共に歩いて愛において成長しますように。妬み、誤解、他の人の弱さのために、教会の一致がなくなりました。まず、この悪から教会が解放され、救われ、そしてそれによって私たちは一致して社会の中にあなたの正義とあわれみを証明できますように。アーメン。』

### 日程のお知らせ (時間等は4ページ参照)

8/28(月)~9/1(金)	Sr. 下川は黙想会の為 留守になります
8/30(水)	絶えざる御助けの聖母のイコンが 谷山から西都レデンプトリスチンへ。 31日午後から谷山聖堂に安置、3日まで。その後は宣教修道女会谷山支部に移動、4日以降は唐湊のシスター方の聖堂に安置します。
9/1(金)	初金ミサ /ミサ後 典礼委員会
9/3(日)	ミサ後 司牧評議会
9/4(月)	納骨堂委員会
9/6(水)	ミサ後 求道者勉強会が始まります
9/10(日)	ミサ後 信徒ホール改修工事についての説明、続いて朗読者会
9/17(日)	ミサ後 敬老会(聖堂でそのまま)
9/19(火)	役員会
9/23(土)	ザビエル教会での叙階式 (受付手伝: 村山・古木)
9/24(日)	ミサ後 司牧評議会 (於: 修道院2F)、14:00鹿児島メサイヤ合唱団チャリティーコンサート (コンサート主催者が11:00~17:30聖堂・泣き部屋・信徒会館ホールを使用します)